宮城・仙台城三ノ丸跡

1 所在地　宮城県仙台市川内三ノ丸跡
2 調査期間　一九八三年（昭58）八月〜一二月
3 発掘機関　仙台市教育委員会
4 調査担当者　結城慎一・佐藤　洋
5 遺跡の種類　城館跡
6 遺跡の年代　一七世紀〜一九世紀
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

仙台城跡は、仙台駅から西方へ約二・五kmの地点にあり、青葉山丘陵の東端および河岸段丘を占めている。伊達政宗により慶長七年（一六〇二）に造られたのは主に本丸部分であり、その後、二ノ丸・三ノ丸が造成されたものである。一九八三年八月から一二月にかけて、仙台市博物館の解体新築に伴う事前調査を実施した結果、溝、暗渠、土壙、通路、塀基壇、建物跡などの遺構と、陶磁器、土師質土器、瓦、木製品、石製品、金属製品、鳥獣魚骨など、多数の遺物の発見があった。

（仙　台）

木簡は、三ノ丸西側を区画すると思われる一、二号溝から五点(1)〜(5)、敷地内北西部の三ノ丸造営以前と考えられる六号土壙から一点(6)の計六点が出土している。この(6)を出土した土壙は、周辺遺構、共伴遺物から、茶室との関係が推測できるものである。なお、木簡の樹種は奈良国立文化財研究所の光谷拓実氏の鑑定によれば、全点ヒノキアスナロ（ヒバ）である。

8 木簡の釈文・内容

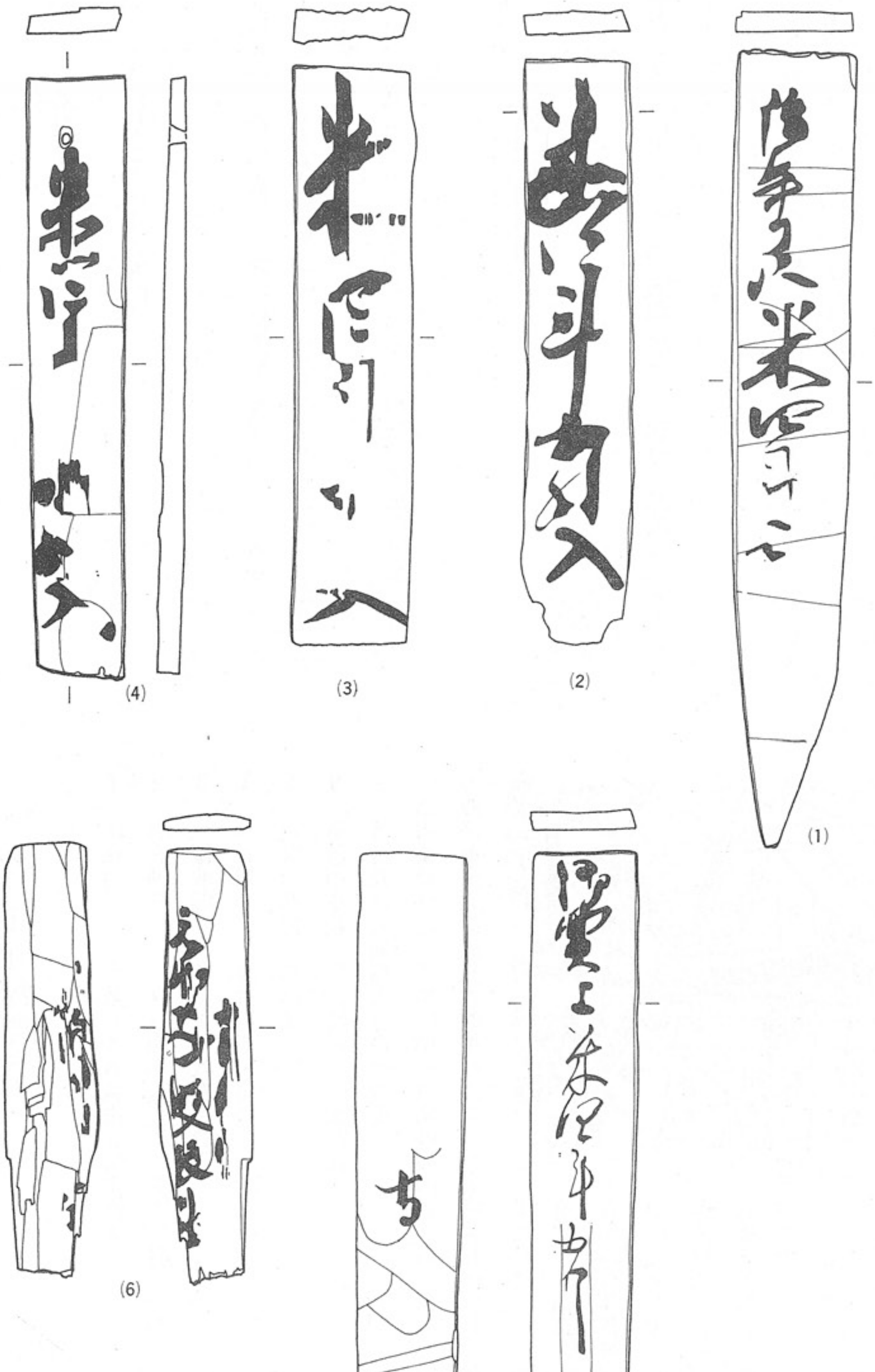
木簡の解読には東北歴史資料館の千葉景一氏のご協力を賜わった。

(1)　・「御年貢米四斗五升入」
・「文化□年
　宮城郡實沢村□　」　222×32×5　051

裏書き部分の墨はとんでおり、高く残った墨書痕跡から読んだものである。現在、仙台市の北に隣接する泉市実沢からの年貢米に付した付札であろう。

(2)　「米四斗五升入」　163×28×6　011

「四斗五升」は米俵で一俵分であろう。


(4)
(3)
(2)
(1)
(6)
(5)
0
5cm

(3)　「米四斗五升入」　160×30×10　011

(4)　「◦米四斗五升入」(穿孔)　165×27×6　011

(5)　・「御買上米四斗五升□」

・「　　□」　(163)×29×5　019

(5)の表の下端は、他の木簡から推察すれば「入」であるが、「|」（棒線）にしか見えない。裏は中央より若干下の部分に一字記されているが不明。

以上の五点は、三ノ丸（米蔵）に伴うもので、米俵に付した付札と考えられる。

(6)　・「□□□□□
元和□年□□□

・「□□」　(120)×25×4　019

籾殻も多く出土したので、陶磁器などを籾殻で保護して搬入した際の付札であろうか。

9　関係文献

仙台市教育委員会『仙台城三ノ丸跡 発掘調査報告書』（『仙台市文化財調査報告書　第七六集』一九八五年）

（結城慎一）

宮城・市川橋（いちかわばし）遺跡

1　所在地　宮城県多賀城市高崎字水入

2　調査期間　一九八四年（昭59）一月〜二月

3　発掘機関　多賀城市教育委員会

4　調査担当者　高倉敏明・滝口　卓

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　奈良時代〜平安時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

市川橋遺跡は、特別史跡多賀城跡の西側から南側にかけて、遺跡の西側を南北に流れる砂押川によって形成された自然堤防上に立地している。多賀城跡の周辺遺跡の発掘調査は、一九七九年から多賀城市教育委員会が実施してきており、館前遺跡をはじめ、次第に周辺地域の様相が明らかになってきている。

（仙　台）

調査は、住宅建設に伴う事前調査として実施した。